

# 霞

— 2023年度 博物館だより —

土浦市立博物館  
令和5年10月1日発行(番外第16号)

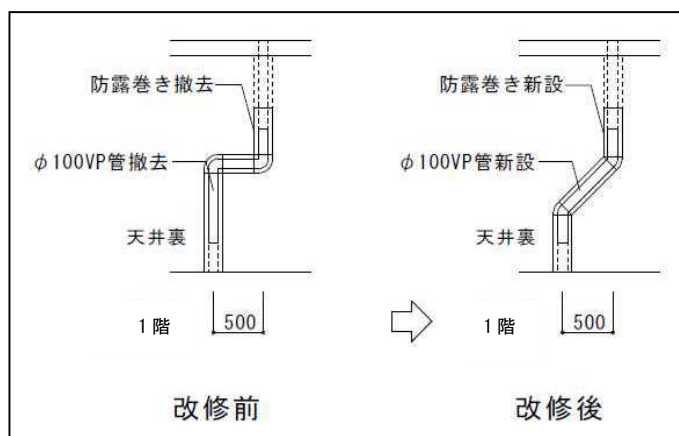
土浦市立博物館は、大規模改修工事のため、令和4年7月5日(火)から令和6年1月上旬(予定)まで休館いたします。博物館だより「霞(かすみ) 番外」では、毎月、工事の進捗状況や館外で開催する展覧会や講座の情報をお伝えします。休館中の「おうちもミュージアム」(解説動画)では、土浦市内の史跡や文化財などの見どころを紹介いたします。

## 博物館は休館中！(16)「博物館の災害対策② 屋上防水」&「照明のLED化」

近年頻発するゲリラ豪雨によって、<sup>ひんぱつ</sup>陸屋根に一次的に大量の雨水がたまり、館内への浸水などが危惧される状況があります。今回の大規模改修では災害対策の一環として、<sup>ろくやね</sup>屋上防水処理も実施しています。あわせて、一部の排水処理の悪い雨水管(たて樋)の改修も実施しました。



屋上防水処理施工後



たて樋の改修のイメージ

博物館の資料にとって、退色や素材の劣化を促す「光」は大きな問題です。しかし、光がなければ資料を鑑賞することはできません。これまでは紫外線を吸収する膜を施した特殊な蛍光灯(美術・博物館用蛍光灯)を用いてきましたが、今回の工事では館内全体でLED化を進めています。LEDの発光は紫外線・赤外線といった資料を損傷する波長をほとんど含みません。また、消費電力が少なく省エネ効果も期待されています。



LED照明交換作業



LED化した収蔵庫内

2023年10月 おうちもミュージアム解説

ぜにがめばし

# 銭亀橋の3枚目の橋板

—踏まれた板で恵比寿・大黒天を刻む—

江戸時代のはじめ、土浦城下の南を流れる桜川に「銭亀橋」が架けられました。江戸と土浦、そして水戸方面を結ぶ水戸街道に架橋された木橋で、城下町の入口にあたり、多くの旅人が行き交った重要な橋です。現在はコンクリート製の橋に変わっていますが、土浦市指定史跡「銭亀橋の跡」の標柱が橋のたもとに立っています。

この橋にまつわる話として、土浦町の国学者で薬種業と醤油醸造業を営んだ色川三中の日記に興味を惹かれる記事を見つけました。天保5（1834）年10月18日と同20日の条です。以下に18日の記事を引用します。

今迄ゑびす大黒天之尊像無之ニ付此度ゑひす講ニ而ほらせ度存候所、幸 銭亀橋登り三枚めの板の切はし川口ニ有之、即 庭の板塀の下より取出候、東崎ひものや権兵衛殿方ニ而ほらせ申候、ゑひすと大黒天との像ニ体ほらせ候（『家事志 第三巻』）

色川家では毎年10月20日に恵比寿講を行ってきました。恵比寿講とは家ごとに恵比寿・大黒天一对の神像を出して祭るものです。当時の色川家には祭る対象としての神像がなかったため、三中はこれを造りたいと思っていたところ、色川家の醤油蔵がある川口町の屋敷に銭亀橋の橋板が残されていました。当時の銭亀橋は中央が高くなる太鼓橋で、橋を登っていく時の3枚目の橋板でした。三中はこの板に、恵比寿・大黒天の二像を彫り出させ、20日に祈禱をしてもらい祭ったと日記に記しています。

ところで、なぜ三中は古い橋の板材、しかも3枚目の橋板で神像を造ることにしたのでしょうか。じつは、3枚目の橋板で恵比寿・大黒天を刻むことは、各地に見られます。民俗学者の田中宣一氏によると、歩幅・歩数の関係から3枚目の板はちょうど足をかけやすく、渡橋者が必ず踏む場所であるため、多くの人の足がかかったように、たくさん人の足が向いてくれること（すなわち店の繁栄）が期待されたようです。また、一般の神々より一段低く考えられている恵比寿・大黒天を、踏みつけられた橋板で造ることによる「強請祈願」の側面があったと、田中氏は指摘しています。強請祈願とは、「ある神をことさらみじめな状態にしておいて、その状態から脱却したいならば我が願いをかなえさせよ」という祈願法です。橋板3枚目で造られた恵比寿・大黒天が「多くの人から踏みつけられたような板ではなく、真つ当な材料で制作しなおしてもらおうとして、祈願者の願望達成のために励んでくれるだろう」との期待が込められているのではないかと解釈です（田中宣一「橋板製のエビス・大黒像」『民具マンズリー』、第43巻8号、2010年）。

銭亀橋の3枚目の橋板で造られた神像に、三中はどのような祈りや期待を込めていたのでしょうか。

（萩谷良太）



現在の銭亀橋



左のQRコードから「おうちもミュージアム」(解説動画)のウェブページへアクセスできます。

霞(かすみ) 2023年度 博物館だより(番外第16号)

編集・発行 土浦市立博物館 茨城県土浦市中央1-15-18  
TEL 029-824-2928 FAX 029-824-9423  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir000378.html>

博物館だより「霞」番外第17号の刊行は、令和5年11月1日(水)を予定しています。

※「霞」バックナンバーは、当館ホームページからもご覧になれます。(カラー版)